広報おうら
ORA TOWN Public Relations
令和4年3月号 No.666
毎月1日発行

〈第九十五回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けします―。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

ひな人形には、子どもが将来幸せな結婚ができるようにという願いが込められており、結婚式の場面を再現したものと言われています

生家における結婚式

生家における昭和10年頃の婚礼は、自宅で行われていました。

花嫁を迎える側は、当日仲人さんが新婦の家に迎えに行き、車で新郎の家に向かいます。新郎の家の近くに前もって定めた中宿に立ち寄る習わしでした。中宿とは新郎の家の近所で、親しくしている家でした。そこで休憩し、一息入れて衣装を整えます。

少しすると新郎側から二人が迎えに行き、お迎えの口上を申し上げた後、案内に立ちます。弓張提灯に明かりを入れ、木遣節を歌いながら新郎の家に導きます。新郎の庭にはすでに大勢の人たちが迎えに出ていて、口々に称賛する声が聞こえます。何人かの男衆が花嫁の後からきねを振って「ヨイショ、ヨイショ」と掛け声と共に土をたたくまねをします。これはおそらく、絆をより固めるという意味らしいです。また、何人かは大きなうちわであおぎ、花嫁を風に乗せて家の中に送るというしぐさをします。

花嫁が座敷に上がり席に着くと、仲人さんのあいさつに始まり、三三九度の杯、乾杯の音頭と進みます。花嫁は深々と綿帽子をかぶっているので表情は分かりません。膳につくと豪華な料理が現れます。

一方、勝手では料理人と近所の主婦が懸命に料理を作って忙しい。大黒柱の所には男衆が四斗樽酒を据え、一度に25本もの徳利の燗ができる容器を使ってお燗し、どんどん運びます。家族や親戚の人がお酌に回り、宴席は次第ににぎやかになります。

宴もたけなわとなり歌が出る頃、花嫁はお色直しに席を立ち、お客は拍手で送ります。しばらくして花嫁はお色直しを終えて出てきて、初めて顔を見せたところで、一同盛んな拍手で迎えます。にぎやかさが一通り続き、やがて家長の謝辞となり、その後選ばれた人が謡曲『高砂』を歌い始めると、新郎新婦は退席して宴は無事終わります。

結婚式の食事

結婚式当日の大盤振る舞いには、特別に料亭から調理人を呼ぶこともあったが、お膳などは隣組衆によって作られる場合が多かったです。芋がしらが縁起の筆頭で、コンニャク、ハス、ニンジンなどを具とし、豆腐をしぼってすったものであえた白和えは必ず作られました。

他にも鮒の甘露煮、なまりの煮付け、洋かん、かまぼこ、豆きんとん、ご豆を盛り合わせた鯛などが主で、時期によって菜類のごま和えが膳に盛られました。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会　【編集】あすへひとこと編集委員会
（平成13年11月11日発行 あすへひとこと（第七集）「邑楽町のくらしとたべもの」）より一部抜粋

まちの風景

集合
（多々良沼公園）

Photo 高根澤高明（記録ボランティア）

ひとりごと　From editors

▶先月、町では珍しく2回も雪の日。そこまで積もりはしませんでしたが、予報を見た時点で気分は少し憂鬱に。子どもの頃はあんなに心踊った雪も、今は面倒だと感じるようになっていたようです。年を重ねるごとに、感性も変わっていくものと改めて実感しました。しかし逆を言えば、前は嫌いだったり苦手だったりしたものが、今はそうではないこともあるかもしれません。出来なかったことに改めて挑戦してみて、自分自身のアップデートをしてみるのもいいかも知れませんね。▶そして役場内部も機構改革によりアップデート。新設される課や名称が変わる課があります。時代に沿った住民サービスができるよう変わっていく邑楽町役場をこれからもよろしくお願いします。（小谷）

編集・発行　邑楽町役場企画課
〒370-0692（住所記入不要）
☎ 0276-88-5511（代表）
☎ 0276-47-5007（企画課直通）
FAX 0276-89-0136
URL https://www.town.ora.gunma.jp
✉ koho@swan.town.ora.gunma.jp

おうらお知らせメール
配信を希望する人は、右のQRコードから、ご登録をお願いします。
URL http://cc9.easypocket.jp/（スマートフォン・PC）
URL http://cc9.easypocket.jp/k/（携帯電話）
（スマートフォン・PC）
（携帯電話）

UD FONT by MORISAWA
この広報紙は、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
VEGETABLE OIL INK
この広報紙は、自然保護のため植物油インキを使用しています。